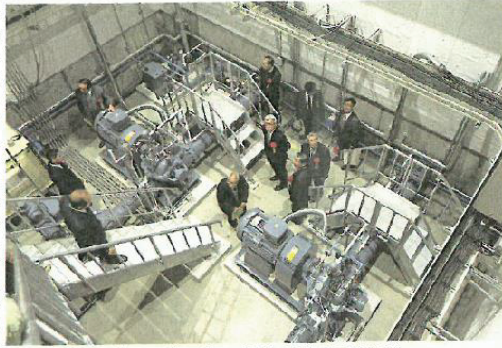


晒川ダム供給エリアへの送水能力も 新潟福島豪雨被災の新田川揚水場が完成



地下1階のポンプ室を見学する参集者

新田川揚水場完成式が、街地の国道17号沿いの先月27日、市内1原町の東側エリア（本町1、2、3、4、5、6、宮下町、学校町1、田川揚水場は、中心市街地を20町内）の流

雪滞用水を田川から取水・送水するために昭和43年に作られた施設で、田川から毎秒0.273立方メートルを取水し流雪溝に送水、同エリア全世帯約1100戸のうち約700戸が除排雪等に利用している。旧施設は田川橋下流右岸にあったが、平成23年7月の新潟福島豪雨災害での田川の氾濫により全壊し使用不能に。今年3月まで仮設の揚水場が取水を行ってきた。

新施設は同橋上流左岸に場所を移して建設され、鉄筋コンクリート造、地下1階・地上2階建て。総事業費約4億円。1階に電気室、2階に休憩室・和室があり、地下1階のポンプ室には旧施設

の約1.5倍の出力を持つ送水ポンプ2基（出力1100馬力）を備える。送水ポンプの増強により、将来的にはこれまでの送水エリア27町に加え、建設中となった晒川ダムから流雪滞用水の供給を受ける予定だった晒川沿線地区を15・1町へ送水する能力も持っている。

この日は現地で安全祈願祭が行われ、関係者約30人が参集。施設の完成を祝い、今後の運用の安全を祈願した。クロステンで行われた祝賀会も、完成式実行委員会の庄野雅弘委員長は「素晴らしい揚水場が完成し、住民は大変喜んでいいる。また、夜間に余水を取水して溜め、より多くの水を（晒川沿線地区など）利用できるようにする計画もある」と述べた。最後に前向きに検討頂きたい」と書いと期待を語っていた。